

特命助成

「ぱちんこ依存問題に関する相談および回復支援」事業

パチンコやパチスロへの過度ののめり込みに関する 相談・啓発・予防・回復支援などに取り組む

遊技業界ならびに民間や公的機関、研究・医療機関などと連携・協力しながら、パチンコなどの遊技の利用者とそれに関係する人々に対し、過度ののめり込みに関する相談、啓発、予防などの事業を行ってきた。のめり込みによって生じる健康被害や社会的損失を防止することは、広く社会全体の利益にもつながっていく。



ホール内に提示されているポスター

遊技など娯楽の持つ負の影響を最小化し、 安全で有用な社会資源となるために尽力

NPO法人「リカバリーサポート・ネットワーク」は、沖縄県中頭郡西原町を拠点に活動し、パチンコ依存問題の相談にあたる第三者機関として、2006年に全日本遊技事業協同組合連合会の支援を受けて発足した。より公益性の高い活動を目指し、2009年にはNPO法人、2013年には認定NPO法人として認可された。

遊技業界ならびに民間や公的機関、研究・医療機関などと連携・協力しながら、パチンコ・パチスロなどの利用者と、それに関係する人々に対して、娯楽・遊技への過度ののめり込みに関する相談、啓発、予防などの事業を行っている。

人が生きていくには、娯楽が必要である。世界のどのような地域、歴史においても、人々は日々の生活の中で楽し

みを見つけ出し、暮らしに潤いをもたらすものとして利用してきた。日本で生まれたパチンコも、まぎれもなくそうした娯楽の一つである。しかし、昨今では、借金や失業などの経済問題、育児放棄や家庭内暴力などの虐待・暴力問題、依存や抑うつ、自殺などの精神医学的問題、借金などを契機に引き起こされる犯罪などがパチンコの周囲で起き、社会問題となっている。また、子どもの放置死や駐車場車内での熱中死など、痛ましい事件も繰り返し起きている。

こうした現状を踏まえ、同法人ではパチンコへの過度の「のめり込み（パチンコ依存問題）」に焦点を当て、早期介入のシステムを構築する必要性を提唱し、電話相談による早期介入と、依存問題からの回復支援などを柱とする活動に取り組んでいる。

依存問題の相談や回復支援を目的に 年間を通して様々な活動に取り組む

遊技に対する社会の持つ負のイメージ、パチンコののめり込みに対する誤解や偏見などによって、日本では世界的に標準的となっている依存問題への理解や対策が遅れているが、そうした状況のなかで、同法人では2023年度に引き続き、POSCの助成を活用し、パチンコ依存問題に関する相談および回復支援を目的に、以下のような事業を実施した。

- ①電話相談事業、②広報・啓発事業（ニューズレター、啓発リーフレット、啓発ポスター、自己診断アプリ、eラーニングシステムの開発・提供など）、③支援・連携活動事業（公的研究へ協力、回復施設などとの連携・協力）、④企画開催事業（セミナーおよび講演会などの企画開催）、⑤研修活動事業（相談技能などの研修）、⑥資料作成・企画／出版事業。

上記のような取り組みを通じて、より早期に依存問題を持った人たちに介入できるようにしており、遊技産業からの出向者・研修者、遊技産業での勤務経験を持つスタッフがトレーニングを受けて、相談対応を行うまでになってきた。増加する電話相談に対応するだけでなく、相談者の幅広い相談内容に対応できるようになった。また、遊技業界と協働して様々な依存問題対策を立案するとともに、「安心パチンコ・パチスロードバイザー制度」の創設や配置などを進めてきた。これらの活動は、海外の研究者からも高く評価されている。

電話相談のデータは1年ごとに総合的に分析し、その結果を報告書として冊子やPDFデータにまとめ、無償で配布しているほか、学術誌などに発表したり、ギャンプリング関連の国際学会において報告したりしている。また、遊技産業界が行う研修や講演、視察などにも活用するなど、その成果を遊技産業内外に広く伝えている。



視察に訪れた全日遊連関係者の方々



視察に訪れた京都府遊技業協同組合青年部会の方々

助成団体: 特定非営利活動法人 リカバリーサポート・ネットワーク

<http://rsn-sakura.jp>



これからの未来を支える社会資源の育成に役立っている助成

社会的に重要な課題であっても、公的機関では手が回らず、民間でしかできない非営利活動はたくさんあります。しかし、そうした非営利活動を担う人々に対する支援の文化がまだまだ脆弱な日本においては、活動が育たず、消えてしまうプロジェクトも数多くあります。POSCの助成は、こうした活動を支える重要な役割を果たしています。

特定非営利活動法人 リカバリーサポート・ネットワーク
代表理事 西村 直之さん